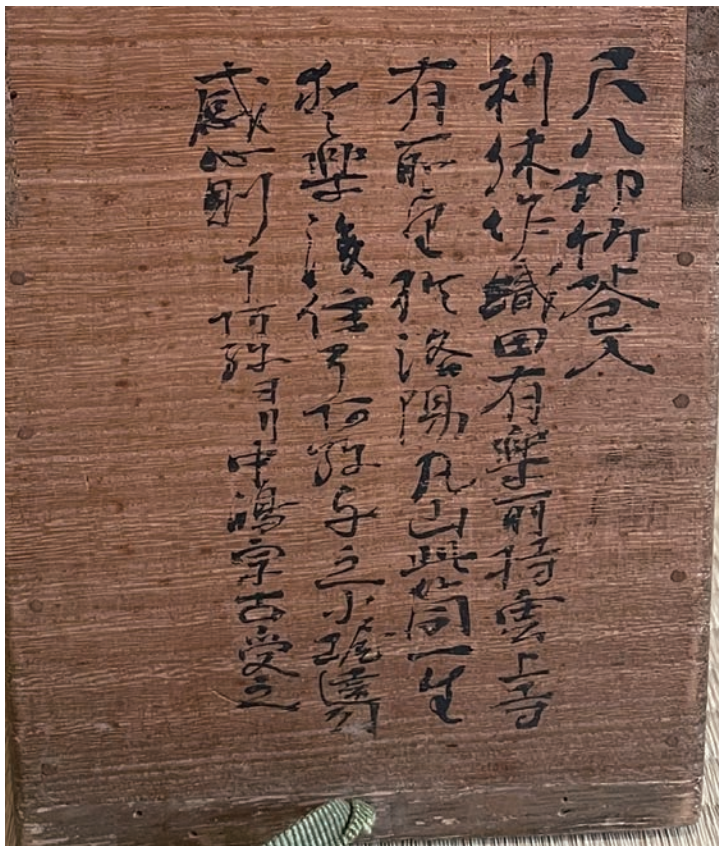


利休作 尺八切竹花入



織田有樂所持
井伊家伝来
桃山時代

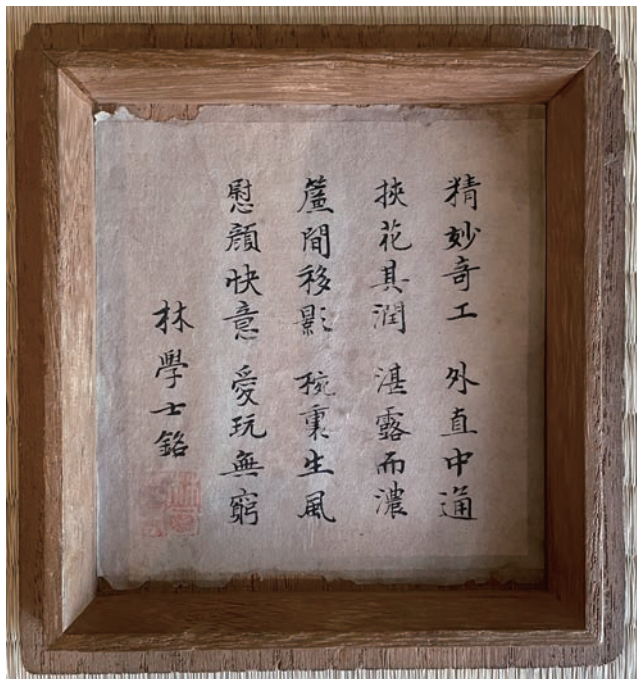
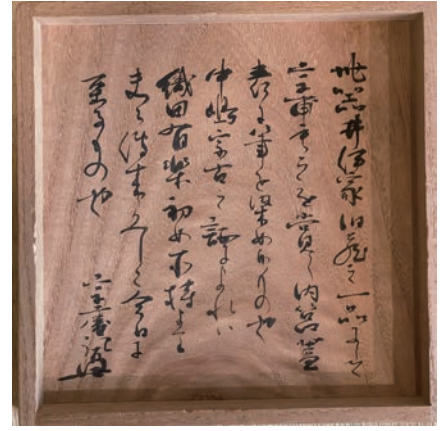


尺八切花入

利休作織田有樂所持
雲上寺有所望
於洛陽丸山 此筒一生愛樂
後住了阿弥之
小堀遠州感心 則
了阿弥ヨリ中島宗古受之

この竹花入は利休作である、はじめ織田有樂斎が所持していたが、所望によりて雲上寺に譲られた 以来京都丸山でこの筒を一生愛し楽しんでいたが、のちの住職・了阿弥はこれを小堀遠州公に見てもらい、そこで茶人・中嶋宗古に譲られたので、宗古宗匠はこれを受け愛玩したのである。

箱



精妙奇工 外直中通
挾花其潤 湛露而濃
簾間移影 枕裏生風
慰顔快意 愛玩無窮

林學士 銘

銘書：

まことに珍しく見事な立派な出来で、外は素直で中は通っている
ひとたび花を生けると、その潤いは露をたたえて細やかである
影を簾の間にうつし、一服の茶をすすると、風致風趣が生じて
気持ちよく愛玩できるものである